

大会要項

ver1.0

1. 大会名称

秩父宮杯 第73回関東大学アイスホッケー選手権大会

2. 主催

公益財団法人東京都アイスホッケー連盟

3. 後援

公益財団法人日本アイスホッケー連盟 毎日新聞社

茨城県アイスホッケー連盟 神奈川県アイスホッケー連盟 埼玉県アイスホッケー連盟

千葉県アイスホッケー連盟 栃木県アイスホッケー連盟 山梨県アイスホッケー連盟

4. 期間

代表者会議 2026年4月11日(土)18:00～ 東京体育館第一会議室

新入生歓迎マッチ 2026年4月12日(日)13:30～

Aグループ 2026年5月6日(水祝)～5月31日(日)

B/Cグループ 2026年4月19日(日)～6月28日(日)

5. 会場

ダイードリンコアイスアリーナ 〒202-0021 東京都西東京市東伏見3-1-25

6. 大会事務局

公益財団法人東京都アイスホッケー連盟 〒202-0021 東京都西東京市東伏見3-1-25

TEL:042-467-8282 FAX:042-468-2131

7. 参加資格および登録

* 選手および役員は、2026年度の(公財)日本アイスホッケー連盟登録完了済みでなければならない。
(登録料支払い済みを原則とする)

* 選手は、大学の在学証明を受けた者のみベンチ入りできる。休学中の試合出場は認めない。
ただし、学生マネージャー・スタッフは、この限りではない。

* 選手の追加登録
原則として、2026年4月17日(金)までとする(登録料振込期限も同日)。
ただし、試合前日までに当連盟に届出を行い、認められた場合は、この限りではない。

* 役員の追加登録
大会期間中、随時受け付ける。
ただし、試合前日までに登録が完了していない場合には、ベンチ入りできない。

* 選手・役員の追加登録の際は、その都度、参加申込書を提出する。

* 選手登録人数がスケーター5人とゴールキーパー1人に満たないチームは、今大会に限り参加資格を失う。

* 女子および大学院生は試合への参加資格を持たない。

8. 参加チームおよびグループ分け

エイワ杯2025年度関東大学アイスホッケーリーグ戦の結果ランキングにより、1位から14位までをAグループ、15位以下をB・Cグループとする。

ただし、大会参加大学数によりグループ内チーム数に変動することがある。

9. 組合せ抽選会

実施しない。

10. 大会参加申込み

日本アイスホッケー連盟FaceOffシステムを使用した申し込みとする。

使用方法・申込期限は別途通知する。

11. 大会費

- * 大会参加費 全チーム 50,000円
- * 試合費 試合数に準じて、以下の通りとする。
 - Aグループ 20分ゲーム 70,000円 × 試合数
 - Bグループ 15分ゲーム 60,000円 × 試合数
- * 支払い期限 大会参加費 2026年4月17日(金)まで
試合費 各チームの最終試合前日まで
- * 振込口座
東京三協信用金庫 東伏見支店 (店番号016)
公益財団法人東京都アイスホッケー連盟
普通預金 口座番号100388 ※必ず大学名(登録チーム名)で振り込む。

12. キャンセル規定

- * 参加申し込み後に辞退した場合、大会参加費および試合費は、予定されていた試合数分を支払う。
- * いかなる理由でも大会参加費の返金は行わない。
- * 原則、リンク枠のキャンセルは行わない。
- * チーム事情により試合を棄権した場合、当該対戦チームの試合費を負担する。
この際、対戦予定チームは、試合時間を利用して練習または練習試合を行うことができる。

13. 保険の加入

大会参加チームは傷害保険に加入し、保険証券または保険申込者(被保険者)がわかる明細のコピーを連盟事務局に提出する。

提出期限 各チームの初戦前日まで

14. 表彰

- チーム表彰 各グループの1位～3位チームを表彰する。
- 個人表彰 各グループより、最優秀選手賞1名を選出し表彰する。
Aグループより、ベスト6および最優秀新人賞1名を選出し表彰する。

15. 表彰式

グループ別の表彰式を実施する(順位が確定した段階で試合後に行う場合がある)。

Aグループ 5月31日(日) 最終戦終了後

B・Cグループ 6月28日(日) 最終戦終了後

全体による表彰式は実施しない。表彰の対象チームは全選手参加すること。

16. 入場料

入場券は会場受付にて販売する。当日券のみ。

一般 1,000円 高校生・中学生・小学生 500円

4月12日(日)13:30～新歓マッチ(ディビジョン2以下および同好会による)は入場無料。

17. 試合映像撮影・配信

- * 本大会では、試合の映像撮影およびその映像配信を行うことがある。
- * 本大会に参加する全ての選手、スタッフ、競技役員等は、本大会参加中の肖像の管理を(公財)東京都アイスホッケー連盟に委ねることを本大会参加をもって承諾したこととする。
- * AIカメラ((公財)日本アイスホッケー連盟)による動画配信について:
本大会における試合のテレビ・ラジオ放送権、インターネットその他一切の公衆送信を行う権利(公衆送信権)は、(公財)日本アイスホッケー連盟に帰属することとし、公衆送信権を(公財)東京都アイスホッケー連盟に許諾することがある。

18. IDについて

- * 大会期間中、選手・スタッフ・関係者全ての施設内入場は、IDを所持している者のみとする。
- * IDは常に見えるように首からかける。他人のIDを使用するなどの不正入場者には、別途処分を科す。
- * IDの第三者への譲渡・貸与、複製を固く禁じる。不正があった場合には、別途処分を科す。

19. その他

- * リンク事情などにより日程変更・対戦方式の変更、特別な条項が追加される可能性がある。

競技要項

ver1.0

1. 競技方法・競技時間

【グループ共通】

- * ホーム・ビジター制:
 - ・ 全グループ、全試合において適用する。
 - ・ ホームチームは、試合開始前のパックスにより決定する。仮ホームチームがパックスの表裏を選択する。
 - ・ 対戦表の左側を仮ホームチームとし、本部席から向かって左側のベンチに入る。
- * 第3ピリオド終了時、同点の場合(Aグループ決勝リーグ以外):
 - ・ 両チーム5名ずつのペナルティ・ショット・シュートアウト(以下PSS)により勝敗を決定する。
 - ・ このとき、各チームのゴールキーパーは第3ピリオドと同じサイドを守る。
相手チームのショットの際、GKはベンチに戻らずクリーズ内にて待機する。
ただし、レフェリーが氷面を確認し、両サイドを利用することがどちらかのチームに不利になると判断した場合には、レフェリーが使用するサイドを決定する。
 - ・ さらに同点の場合は、サドンデス方式による両チーム1名ずつのPSSにより勝敗を決定する。
 - ・ PSSの先攻・後攻の選択権は、パックスにおいて決定する。

【Aグループ】

- * 1、2回戦は、トーナメント方式で試合を行う。
- * 2回戦勝利チームは、決勝リーグ戦に臨み最終順位を決定する。
- * 2回戦敗退チームは、5位から8位決定トーナメント戦に臨み最終順位を決定する。
- * 1回戦敗退チームは、2つのブロック(E・F)に分かれてリーグ戦を行う。
その後、9位から14位決定トーナメント戦に臨む。
- * 第3ピリオド終了時、同点の場合(決勝リーグ):
 - ・ 3分間のインターバル後、「3on3」方式による5分間のサドンデス延長ピリオドを行う。
延長ピリオドで決しない場合は、両チーム5名ずつのPSSを行う。
さらに同点の場合は、サドンデス方式による両チーム1名ずつのPSSにより勝敗を決定する。
 - ・ PSSの先攻・後攻の選択権は、パックスにおいて決定する。

【Bグループ】

- * 全試合トーナメントで試合を行う。

【Cグループ】

- * 1回戦総当たりのリーグ戦方式で試合を行う。

2. Aグループの決勝リーグ・1回戦敗退リーグ戦での勝ち点および順位決定方法

	レギュレーション タイム勝ち	延長戦・PSS 勝ち	延長戦・PSS 負け	レギュレーション タイム負け
勝ち点	3	2	1	0

順位決定は以下の通りとする。

- ① 勝ち点の多い順
- ② レギュレーションタイムの勝ち数の多い順
- ③ 当該校の対戦成績の勝ち点の大なるもの
- ④ 当該校同士の試合で得失点差の大なるもの
- ⑤ 当該校同士の試合で得点の大なるもの
- ⑥ 順位決定リーグ内における試合の得失点差の大なるもの
- ⑦ 順位決定リーグ内における試合の得点の大なるもの
- ⑧ 全試合(リーグ戦+トーナメント1試合)での得失点差の大なるもの
- ⑨ 全試合(リーグ戦+トーナメント1試合)での得点の大なるもの
- ⑩ 前年度ランク上位のもの

3. 試合時間

* 練習終了後、整氷を行う。

【Aグループ】	練習 7分	正味 20分×3ピリオド	ピリオド間インターバル	約12分(整氷)
【B・Cグループ】	練習 7分	正味 15分×3ピリオド	1P-2P間インターバル	5分
			2P-3P間	約12分(整氷)

【グループ共通】

* 各グループの試合で、7点以上の得点差がついた時点で、次のフェイスオフ以降はランニングタイムとする。

- ① 点差が縮まった場合でもランニングタイムは継続する。
- ② 次の場合は時計を一旦止める。(次のフェイスオフでパックがドロップされた後スタートする)
 - a) 得点時
 - b) ペナルティ発生時
 - c) タイムアウト
 - d) レフェリー以外が時計を止める場合がある。(怪我・乱闘などの場合)
 - e) 第3ピリオド終了残り2分以降
- ③ ペナルティ時間終了時にプレーが止まっていた場合、ペナルティボックス内の選手は次のフェイスオフでパックがドロップされるまでペナルティボックス内から出てはならない。

4. 競技規則

(公財)東京都アイスホッケー連盟の定めるローカルルールを除いては、原則として国際競技規則ならびに(公財)日本アイスホッケー連盟の定めるルールによるものとする。

5. 補助規則(東京都アイスホッケー連盟が定めるローカルルール)

- 1) 連盟未登録選手が出場した場合、その試合に限り没収試合とし、不戦敗(スコアは0対15)とする。
- 2) オールメンバー表に記載されていない選手は試合に出場できない。スタッフはベンチ入りできない。
- 3) プレーヤー(全選手)は、フルフェイスマスクの付いたヘルメットを着用しなければならない。
顎紐と顎の間のゆとりは指1本分のみとする。
プレーヤーは試合前の練習中、ベンチ内、ペナルティボックス内にいるときも、ヘルメットを正しく着用していなければならない。
- 4) チームのすべてのプレーヤーは、同じユニフォーム、パンツ、ストッキング、ヘルメットを着用しなければならない。
- 5) プレーヤーはマウスガードを着用しなければならない。反則は新ルールに準ずる(マイナーペナルティ)
- 6) 危険な用具を着用している選手は試合に出場できない。
試合前の整列時にレフェリーが両チームのプレーヤーの用具着用状態を確認する。
試合中、正しく防具を着用していないプレーヤーに対しては、警告なしにミスコンダクト・ペナルティを科す。
「お守り」は防具の内側に縫い付けなければならない。それ以外のアクセサリ等の着用は認めない。
なお、これは相手チームからのアピールでは受け付けず、レフェリーの判断によるものとする。
- 7) グローブ、ヘルメット以外の用具は完全にユニホームの下に着用し、ユニホームはパンツから必ず出す。
ユニフォームとパンツは、タイダウンストラップで密着させなければならない。ユニフォームがめくれている選手への注意は、1回目はチームに対して行う。2回目の注意からは、マイナーペナルティを科す。
試合中、ベンチから氷上に出る際、ユニホームがパンツから出ているか、選手スタッフ間で確認する。
- 8) ストッキングを留める際は、透明のテープを使用することが望ましい。
ストッキングと異なる色のテープの使用、および、ストッキングのデザインを変える巻き方は認められない。
色をまたいでテープを巻く場合(クロスさせる等)は、透明のテープのみ使用できる。
ベルクロタイプのバンドも同様とする。
- 9) プレーヤー(全選手)は、ネックガード、イヤークラップ、フルフェイスマスクを着用しなければならない。

- 10) 練習中、ゲームスーパーバイザー(GSV)・レフェリースーパーバイザー(RSV)がネックガード、イヤガード、フルフェイスマスク、マウスガード、ユニフォーム・ストッキングなどの防具を正しく着用しているか確認し、是正させることがある。著しく汚れたり破れたりしているパンツの着用は、試合出場を認めない。
- 11) 試合の際に役員(監督、コーチ等)のうち1名は必ずベンチ入りする。役員はIDを着用しなければベンチ入りできない。役員不在のチームは、試合を放棄したものとみなし、没収試合・不戦敗(スコアは0対15)とする。
役員とは「大会要項 7」のチーム役員登録された者を指す。
※学生は役員として登録することはできない。
- 12) ベンチにはスケーター20名、ゴールキーパー2名の選手計22名、役員6名まで入れる。
外国籍を有する選手は3名以内とする(関東大学リーグ戦・日本学生氷上競技選手権大会[インカレ]共通)
- 13) タイムアウトは全試合、各チーム1回使用できる。
- 14) オールメンバー表、オフィシャル担当表は当連盟所定の用紙に記載し、試合(オフィシャル当番)の当日、練習開始1時間前に提出する。練習開始時間は、最大20分繰り上がる場合がある。
- 15) 試合開始時に、最低でも5人のスケーターと1人のゴールキーパーを氷上に送り出さなければならない。規定人数に満たないチームは、試合を放棄したものとみなし、没収試合・不戦敗(スコアは0対15)とする。
- 16) 試合中にペナルティおよびケガにより、規定人数のプレイヤーを氷上に出不せないチームは試合を没収され、不戦敗(スコアは0対15)とする。
- 17) 仮ホームチームはユニフォームの色を選択できる。ただし、対戦する両チームのユニフォームが同系色の場合は、原則、仮ホームチームがユニフォームを変えなければならない。
基本は、仮ホームが色系、ビジターが白系を着用する。チーム間の協議が整えばこの限りではないが、必ず事前にレフェリー及びGSVの許可を得る。
- 18) スティックおよび用具の計測は、1試合につき各チームそれぞれ1回ずつ要求できる。
- 19) 練習後・ピリオド終了時・試合終了後など、両チームが同一通路を使用して控室に戻る場合、両チームが同時に移動しないよう、出入口に近いベンチのチームから先に速やかに氷上より退場する。
なお、後のチーム(氷上にいる選手)は、一度自チームのベンチに戻り、レフェリーの指示により退場する。先のチームが故意に退場を遅らせたり、後のチームが故意に自チームベンチに戻らない場合は、ベンチ・マイナー・ペナルティ を科す。
氷上の移動は、すべてヘルメットを着用する。(原則としてグローブとスティックも所持する)
- 20) ベンチドアマンの取り扱い
 - ① 当日の試合に出場しないが選手登録されている学生2名以内をベンチドアマンとして置くことができる。この場合、オールメンバー表のスタッフ欄に記載する。ただし、役員6名には含まれない。
 - ② ベンチドアマンは、危険防止のためフルフェイスマスクの付いたヘルメットの着用を義務付ける。
試合前の整列時に、レフェリーがベンチドアマンの用具着用状態を確認し、正しく装備していない場合、その試合のベンチ入りを認めない。この場合、ペナルティ(ベンチ・マイナー)は科せられない。
- 21) ベンチ内での写真・動画撮影は禁止する。コーチングの目的のみ、電子機器の使用を認める。
- 22) ベンチ入りする学生スタッフ(マネージャー、トレーナー等)は危険防止のため、フルフェイスマスクの付いたヘルメットの着用を義務付ける。レフェリーが規定に違反している学生を発見した場合、該当者をベンチから退場させる。ただし、ペナルティ(ベンチ・マイナー)は科せられない。
ベンチに入るスタッフ・トレーナー・マネージャー等は、ユニフォームを着用してはならない。
- 23) 第2ピリオド、第3ピリオド開始時は、ファーストセットのみ氷上に上がる。
ただし、リンクコンディションによっては、ベンチ内で待機を指示する場合がある。
- 24) 申請した登録と試合当日の背番号に変更がある際は、オールメンバー表提出時、競技役員(大会運営委員長、GSV、スコアラー等)に報告する。
原則として、ホームユニフォームとビジターユニフォームで異なる背番号は認めない。
- 25) 背中のネームは、「自分の姓」をつけること。
ユニフォームの名前を隠す際は、同系色の布を縫い付ける(テープ使用は不可)。

26) ゴールの確認についてのみ、チーム側からチャレンジすることができる。

別途、定める「コーチチャレンジ」「VSSローカルルール」を適用する。

- ・ コーチチャレンジ <https://tihf.jp/doc?did=164854365215687200>
- ・ VSSローカルルール <https://tihf.jp/doc?did=171620252896479300>

6. 試合中の負傷

- * 試合中に起こった傷病に関して応急処置は行うが、その後は各チームおよび個人の責任とする。
- * 試合中に選手が負傷した場合は、当連盟所定の傷病報告書フォームに記載し、事務局宛てにメール送信する。
 - ・ 傷病報告書 <https://tihf.jp/doc?did=163652573700698700>

注意事項

- * 事前の連絡なく、代表者会議、オフィシャルクリニック、表彰式、試合、オフィシャル当番を遅刻、欠席、棄権した場合、また連盟の規約に違反した場合、JIHFリスペクト憲章に反する行為を行った場合は、学生事業委員会ならびに審議委員会にて協議し、処分を科す。
- * 試合前練習の際、終了ブザー後にシュートを打った選手は、その試合の出場資格を失う。
- * ペナルティベンチ内では、ペナルティ終了30秒前まで座っていなければならない。
また味方への応援を含む一切の私語を禁止する。
(上記については、レフェリー以外が別途処分を科すことがある)
- * 試合時のツバ吐き行為は、いかなる理由があってもゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科す。
いったん口に入れた水等を吐き出す行為もツバを吐く行為と同様にみなす。
- * 試合終了後30分以内に退場する。
- * 大会期間中のシャワー利用を禁止する。

<緊急連絡先>

第1連絡先 大会運営委員長 横川 将也
第2連絡先 大会運営副委員長 内山 邦也